

東京の大学を知ろう!(X)

～シリーズ:大学について知ろう(その19)～

今回はある大学の謎に迫りたい…その名はズバリ**東京理科大学**っ! 東京理科大学は理学部・工学部・理工学部・基礎工学部・薬学部・そして何故か経営学部の各学部で構成される理系大学です。理学部には第二部(夜間)もあります。関東の理系私立大学のランキングでは(学部学科によって違いはあるものの)慶応・早稲田に続く3番目に位置する大学で、難関国立大志望者が併願校として受験することが多いことで知られます。しかし、よく考えてみると非常に分かりづらい大学で、理・工・理工・基礎工の各学部の違いは何なのか?よく見ると「数学科」「物理学科」は理学部にも理工学部にもあるし、「建築学科」をはじめ類似する学科が工学部・理工学部の両方に存在するのです。キャンパスは神楽坂(東京)・野田(千葉)・長万部(北海道)に葛飾(東京)が加わったのですが、この学部がココと決まっているわけでもないらしい。さらに姉妹校として**山口東京理科大**(山口)と**諏訪東京理科大**(長野)を建てたと思ったら両大学ともいつの間にか公立大学に変身!。実に不思議です…。そして、東京理科大学は2021年度から2025年度にかけて学部・学科を再編するらしいのです。

以下の文章は**7年前(2013年)**に私が説明会に行ったときのことを書いたものです。東京にある理系私立大学の雰囲気をちょっぴり味わってくださいな。

TOKYO UNIVERSITY OF SCIENCE

東京理科大学葛飾キャンパスに行ってきました…

東京理科大学の葛飾キャンパスは東京の下町にドカンと存在する



北千住からJR常磐線(東京メトロ千代田線)に乗り換え、3駅(約10分)で金町駅に到着。「こち亀」で有名な亀有駅の隣です。金町商店街の歩道には数mおきに「ようこそ東京理科大」のペナントが飾られ、町をあげてのウェルカムムード。商店街を抜けると、ドカンと葛飾キャンパスが現れます。狭いところにゴチャゴチャと密集している神楽坂キャンパスに比べると、これはまるで別の大

キャンパス入口。左が研究棟、右が講義棟学です。葛飾区が整備する公園の中につくられたキャンパスで、幅広いメインストリートに施された植栽も見事です。さて、まずは昼食。学生食堂は講義棟の先の管理棟にありました。1階が500人収容の学生食堂なのですが2階にも同規模のフードコートがあり中華・洋食・ビビンバ・イタリアンの4店舗が入っています。どちらで食べようか悩んだのですが、結局1階の学生食堂にしました。何を食べるか悩んだ結果、ここは基本のAランチ(ミックスグリル定食)460円を選択。1時過ぎだったので食堂は混んではおらず、窓側の4人掛けテーブルを独占し、公園のような外の風景を眺めながら優雅な気分での食事となりました。味は



500人収容の1階学生食堂

普通でしたが、ご飯の量は多く、なんといっても新しくて綺麗なのが最高です。ふと隣を見ると女性が1人で食事をしていましたが、きっと研究者なのでしょう(さすが理系大学!)。さらにその奥にはどう見ても近所のおばちゃんグループらしき一団がにぎやかに食事をしています。大学内を散歩しているらしきお年寄りも多く、ここは完全に地域に開かれたキャンパスのようです…。



図書館。ここの3階が大ホール

東京理科大の謎は残ったが…

説明会は葛飾キャンパスの一番奥にある図書館で行われました。ここは1～2階が吹き抜けの図書館部分で、その上の3階には600人収容のすばらしい大ホールがあるのです。新しい葛飾キャンパスでの説明会ということで、大ホールの座席はほぼ満杯でした。

最初の学長挨拶に続き、副学長による概要説明。まず各キャンパスについて…野田にあるのが薬学部と理工学部。神楽坂が理学部のほとんどと工学部の2学科、そして理の第二部。葛飾には理学部の応用物理学科と工学部の3学科、そして基礎工学部の2年次以降。長万部に基礎工学部1年次があり、久喜に経営学部(ただし、2016年からは神楽坂へ)。続いて教育の特長…理工系総合大学のスケールメリット(理工学の幅広い分野をカバー、総合研究機構も充実)。同窓高校教員の貢献(全国に約2500人の同窓高校教員、太東にもいらっしゃいます)。社会的評価の高さ(大学ランキング[朝日新聞社]で総合評価7位[私立大学1位]、進学して伸びた大学5位[私立大学1位]など)。進学就職状況…大学院進学は全学部平均で約50%(学科によっては80%を越えている)、就職率は景気に左右されることなく毎年100%に近いとのことでした。

説明会では同一名称の学科が複数学部にある謎を解明できなかったもので、帰ってから同窓生である数学の先生に尋ねました。その話によると、徐々にキャンパス・学部を増やしていく中で出来ていったので、それぞれ独自なものと考えればよいらしいのです。実際、ランキング表を見ると、同じ学問系統の中に東京理科大学が学部ごとに登場してくるのです(だいたいの場合、理→工→理工→基礎工という、学部が出来た順に並ぶことが多いようです)…。

(注)2021年度からの再編は、2021年に基礎工学部を先進工学部と改称して4年間葛飾キャンパスとし、2023年に2学科増設。2021年に経営学部国際デザイン経営学科を新設、2023年に理工学部を創域理工学部と改称して留学生のための国際コースを新設し、同コースと経営学部新学科が1年間長万部。2025年から薬学部は葛飾キャンパスへ移動。

今回のお土産は葛飾柴又で有名なアレを…

帰り際に研究棟の1階にある生協売店でお土産を買うことにしました。数年前から東京理科大学はイメージキャラクターとして「坊ちゃん」と「マドンナちゃん」を採用(夏目漱石の小説「坊ちゃん」の主人公が理科大の前身である東京物理学校出身という設定から)していたので、キャラクターグッズがあると思ったのですが、ストラップぐらいしか売っていないので断念。結局「TOKYO UNIVERSITY OF SCIENCE」のロゴの入ったシャーペン(84円)とクリアファイル(80円)を購入しました(なんだか寂しいお土産だ…)。

ところで、葛飾と言えば柴又。せっかくココまで来たので、京成金町駅から京成電車に乗り、隣の柴又へ立ち寄りました。駅前には寅さんの銅像が立ち、なぜか「金のうんこ」を売っている土産物屋があり、帝釈



柴又駅前に立つ寅さんの銅像

天に向かう200mほどの参道には団子屋・漬物屋・鰻屋などが軒を連ねています(なんだか昭和の臭いがする観光地です…)。寅さんの実家のモデルと言われる高木屋老舗で食べ歩き用の串に刺した草団子(150円)を買って食べるとこれが美味(だんごは柔らかく、餡も甘すぎず絶妙)! 帝釈天参拝後にもう一度高木屋老舗に立ち寄り、お土産用に草団子12個入り(630円)を購入。もちろん和菓子好きの息子も、甘いものの好きのカミさんもこれには大満足でした…。

